

# 労働者の情報セキュリティ意識に関する実証分析\*

竹村敏彦†・峰滝和典‡・今川拓郎§

## 概要

本研究では、労働形態、所属している組織属性や、個人属性などの違いによって、労働者自身の情報セキュリティおよび情報セキュリティ対策への意識が異なるか否かを調べることを目的とし、そのためにノンパラメトリックな手法に基づく分散分析をおこなっている。その結果、概して、労働形態や組織属性、個人属性によって情報セキュリティ意識に差異が確認された。そして、これらの結果を踏まえて、企業の効率的な情報セキュリティ対策につながるモチベーションをもたせる企業システム（権限移譲、ストックオプションなど）の導入・充実や情報セキュリティ教育の充実の必要性を主張している。

キーワード：情報セキュリティ、労働者、分散分析、情報セキュリティ教育

JEL：C13, D78, L86

---

\* 本研究は、竹村が文部科学省の科学研究費補助金交付課題「情報セキュリティに対する脅威の経済分析と有効な情報セキュリティ政策の提案」（課題番号 20730196・若手研究 (B)・研究代表者 竹村敏彦）、峰滝と今川が文部科学省の科学研究費補助金交付課題「企業マイクロデータに基づくソフトウェア産業の実証分析：産業構造、生産性、人的資本」（課題番号 21330061・基盤研究 (B)・研究代表者 峰滝和典）の助成を受けておこなった研究成果である。

† 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構・助教 [takemura@rcss.kansai-u.ac.jp](mailto:takemura@rcss.kansai-u.ac.jp)

‡ 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構・統計分析主幹 [minetaki@rcss.kansai-u.ac.jp](mailto:minetaki@rcss.kansai-u.ac.jp)

§ 総務省情報通信国際戦略局情報通信経済室・室長